



2023年10月19日

各位

## 「金沢マラソン 2023」「富山マラソン 2023」での飲料容器回収・紙製コップリサイクルの取り組みについて

「金沢マラソン 2023」（2023年10月29日開催）と、「富山マラソン 2023」（同年11月5日開催）のオフィシャルスポンサーを務める北陸コカ・コーラボトリング株式会社（富山県高岡市、代表取締役社長：井辻 秀剛、以下「当社」）は、日本製紙株式会社（以下「日本製紙」）と協働で、各会場において「飲料容器回収・紙製コップリサイクルの取り組み」を実施します。



（上図：リサイクルのスキーム図、下図：2022年実証実験時の画像）

「金沢マラソン 2023」「富山マラソン 2023」には、2大会合計で約28,000名のランナーが参加する予定です。

本取り組みは、紙容器の再資源化技術を持つ日本製紙と、容器由来の廃棄物削減を目指す当社が協働し、会場で排出される使用済み紙製コップを回収・リサイクルすることで、廃棄物の削減に貢献するものです。各会場で適切に分別回収された使用済み紙製コップは、製紙工場にてトイレットペーパーや段ボールにリサイクルされる予定です。

すでに回収レートやリサイクル手法が確立されているビン・缶・PETボトル等と比較し、紙製コップの回収・リサイクルは普及途上にあります。本取り組みを通じて使用済み紙製コップが適切に分別回収すれば再資源化できることを広く示し、その回収・リサイクルにまつわるノウハウの確立と、環境負荷低減効果の検証を目指します。

昨年は実証実験として、コース上に設置された給水所において紙コップのみを分別回収することに初めて取り組んだ結果、運営事務局や参加ランナーの共感・協力を得て、金沢マラソンでは約1t、富山マラソンでは約500kgの使用済み紙製コップを回収・リサイクルできました。

また、リサイクルしたことによる紙コップ1tあたりのCO2削減量は145.1kgとの試算結果が出ております。（容器単純焼却+古紙による通常生産を行った場合との比較：日本製紙試算）



当社は2大会の協賛社としてランナー、運営スタッフに飲料を提供するとともに、大会運営事務局との協働によりPETボトルと紙製コップの回収に取り組み、昨年以上の回収量を目指します。なお昨年に引き続き、会場内で排出されたPETボトルもグループ会社であるGRNエコサイクル株式会社（石川県白山市）で回収・中間処理し、再びコカ・コーラ社の容器としてリサイクルする予定です。

■「金沢マラソン 2023」概要 (<https://www.kanazawamarathon.jp>)

- 開催日時：2023年10月29日（日） ※雨天決行  
第1ウェーブ 8:30・第2ウェーブ 8:45 スタート/15:30 終了
- 定員：約14,000人（一般枠・優先出場枠合計13,000人、ふるさと納税ランナー枠700人、チャリティランナー枠300人）
- 主催：金沢マラソン組織委員会、石川県、金沢市、北國新聞社、（一財）石川陸上競技協会、金沢市陸上競技協会



■「富山マラソン 2023」概要 (<https://www.toyamamarathon.com>)

- 開催日時：2023年11月5日（日） ※雨天決行  
【マラソン】9:00 一斉スタート 16:00 過ぎ 終了  
【車いす（約9km）】8:50 スタート 9:30 終了  
【ジョギングの部（約4km）】8:30 スタート 9:20 終了
- 定員：14,030人（マラソン13,000人、車いす30人、ジョギングの部1,000人）
- 主催：富山マラソン実行委員会、（一財）富山陸上競技協会



■コカ・コーラシステムのサステナビリティへの取り組みについて

日本コカ・コーラ株式会社と全国5社のボトリング会社などから構成されるコカ・コーラシステムは、「世界中をうるおし、さわやかさを提供すること。前向きな変化をもたらすこと。」の事業目的ののっとり、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらしながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。2020年には「多様性の尊重」「地域社会」「資源」の3つのプラットフォームと9つの重点課題を特定し、システム共通のサステナビリティフレームワークを策定しました。各領域において事業活動を通じて社会課題の解決を目指すことで、持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも貢献してまいります。

